

# ダニエル書 - 第四百四十四号

## 米国民主党の崩壊の預言的意義

Jeff Pippenger

2024-03-18

アメリカ合衆国における民主党の崩壊は、聖書の預言における具体的な主題である。それは、アメリカ合衆国の第八にして最後の大統領に関連づけられた預言的特徴の一つである。これは、七つのうちに属する第八の大統領を獣の像の頭とするという預言的な動態と結びついている。世界における獣の像は二重であり、かつ三重である。教会と国家の結合を表すという意味で二重であるが、同時に三重でもある。というのも、それは十人の王（国家統治）から成り、首位の王（教権）によって指揮されているからである。その獣は、一つの頭、すなわち七つのうちに属する第八の頭によって乗りこなされ、支配されている。

アメリカ合衆国における獣の像は二重であり、しかも三重である。教会と国家の結合を表すという点で二重であるが、同時に三重でもある。というのも、それは背教的な共和主義の角（国家統治術）から成り、その角は背教的なプロテスタントの角（教会統治術）によって指揮されているからである。その獣は一つの頭によって騎乗され、また支配されており、その頭は七つに属する第八の頭である。

指導者はいずれの場合でも、完全な独裁者である。彼の独裁が明確に示される場合は、地の獣が竜のように語るときの歴史の流れの中である。というのも、「語る」ことが地の獣の主要な特徴だからである。それは1776年、1789年、1798年、1863年、2001年、2021年に語り、そして間もなく到来する日曜法において像が完全に形成されるとき、再び語ろうとしている。

パウロの時代には、不法の奥義、すなわち教皇権は既に働いていたが、異教ローマの竜によって抑えられていた。1798年と1799年には、竜が不法の人を権力の座から退けたが、1989年には、ローマの教皇がソビエト連邦の竜を打ち破った。預言の歴史全体は、終わりまで一貫して、教皇権を竜との戦いの中にあるものとして描いている。ローマの教皇は、終わりの日に、竜と獣と偽預言者の三者連合という悪しき同盟の盟主として担ぎ上げられる専制者である。ホワイト夫人は「一つの頭のもとに、すなわち教皇権」と言い、また詩篇記者も、十人の王が七つのうちの一つである第八の頭を担ぎ上げることを指摘している。

見よ、あなたの敵は騒ぎ立って、あなたを憎む者らは頭をもたげた。彼らはあなたの民に対して奸計をめぐらし、あなたの隠された者たちに逆らって共に謀った。彼らは言った、「さあ、彼らを国としての存在から断ち切り、イスラエルの名がもはや記憶されないようにしよう。」詩篇 83:2-4

アメリカ合衆国が獣の像を形作るとき、それは本質において三重であり、同時に二重でもある。それは教権と政権の二重の結合であるが、その政治体制は一人の頭首によって支配される。第八の大統領が獣の像を支配し、これに乗る。八番目であり、先の七人のうち

の一人でもある大統領は、聖書の預言における「第六の」王国の最後の大統領であり、そして彼は「第六の」大統領として致命的な傷を受けた。

預言的な「罪の人」は、その歴史を通じてずっと竜と戦ってきた。ドナルド・トランプはグローバリズムという竜を怒らせた裕福な王であり、2015年6月16日にニューヨーク市のトランプ・タワーで大統領選への出馬の意向を初めて表明して以来、政治的・社会的・哲学的な戦いを竜の勢力と繰り広げている。そのニューヨーク市は、2001年9月11日にツインタワーが崩れ落ちた街であり、また、ツインタワーに代わるフリーダム・タワーの落成式が2014年11月3日に行われた街でもある。

まもなく到来する日曜法の時に、キリストと十四万四千人との結婚は成就し、ローマの淫婦と地の王たちとの姦淫も偽りの結婚という形で成就する。その日曜法において、エデンの園の双子は共に高く掲げられ、同時に偽物によって攻撃される。その双子の制度とは、結婚と第七日安息日である。

のちにパリサイ人が離婚が正当かどうかについて彼に問いただしたとき、イエスは聞く者たちを、創造のときに制定された結婚制度へと立ち返らせた。彼は言われた。「あなたがたの心がたくなだからである。モーセはあなたがたに妻を離別することを許した。しかし、初めからそうではなかった。」マタイ 19:8。彼は彼らに、神がすべてのものを「非常に良い」と宣言されたエデンの祝福された日々を思い起こさせた。そのとき、結婚と安息日は起源をもち、神の栄光のために、また人類の益のために設けられた双子の制度となった。そして、創造主が聖なる二人の手を婚姻によって結び、「人は『自分の父と母を離れ、その妻に結びつき、彼ら是一つとなる』（創世記 2:24）」と言われたとき、彼は時の終わりに至るまでアダムの子らのための結婚の律法を宣言された。永遠の御父ご自身が良いと宣言されたものこそ、人間にとって最高の祝福と成長の法則であった。『祝福の山からの思索』63。

背教したプロテスタンティズム、心霊主義、カトリックが日曜法で手を取り合う三重の連合は、「創造主が聖なる二人の手を婚姻によって結び合わせた」エデンにおける結婚の偽物である。日曜法において、結婚と安息日という双子の制度は高く掲げられ、同時に冒瀆される。封印の歴史はツインタワーが倒壊したときに始まり、その歴史は結婚と安息日という双子の制度が掲げられるときに終わる。その歴史のただ中で、2014年にフリーダムタワーが落成し、2015年にはトランプによるグローバリズムの扇動がトランプタワーで始まった。

ツインタワーは、グローバリストたちの金銭を愛する心への戒めとして倒され、フリーダム・タワーは、天の神と、神が洪水によって下された裁きに対するニムロドの反逆を象徴しており、ちょうどフリーダム・タワーが2001年9月11日の神の裁きに対抗する象徴であるのと同様である。

あるときニューヨーク市にいた私は、夜のさなか、天に向かって階を重ねてそびえ立つ建物を見るよう促された。これらの建物は耐火であると保証され、所有者や建設者の栄光を示すために建てられていた。さらに高く、なお高くとこれらの建物はそびえ、その建造には最も高価な材料が用いられていた。これらの建物の持ち主たちは、「どのようにすれば最もよく神の栄光を現せるのか」と自問してはいなかった。主は彼

らの思いの中にはなかった。

私は思った。「ああ、このように自分の財を投じている人々が、神がご覧になるように自分たちの歩みを見ることができたなら！ 彼らは壮麗な建造物を次々と築いているが、宇宙の支配者の御目には、彼らの計画や企てがなんと愚かなことか。彼らは、心と思いのすべての力を尽くして、いかにして神の栄光を現すかを求めてはいない。これこそ人間の第一の務めであるのに、それを見失っているのだ。」

こうしたそびえ立つ建物が建てられていくにつれ、所有者たちは、自己の欲を満たし隣人のねたみをかき立てるために使える金を持っているのだという野心的な誇りに満ちて喜んだ。彼らがこのように投資した金の多くは、過酷な取り立てや、貧しい者を虐げて搾り取ることによって得られたものであった。彼らは、天ではあらゆる商取引が帳簿につけられており、すべての不正な取り引き、あらゆる詐欺的行為がそこに記録されていることを忘れていた。やがて、人々はその欺きと傲慢において、主がこれ以上進むことをお許しにならない限界点に達し、ヤハウエの忍耐にも限度があることを知るようになる。『証言』第9巻、12。

ニムロデの塔が表す反逆は、神が最近下された洪水の裁きに対するものであり、それは最近の神の裁きに対するグローバリストの銀行家たちの反逆をも象徴していた。グローバリストの辞書で定義される自由は、聖書的な自由とはまったく相反する。竜の辞書における自由は放縦であり、フランス革命の不道徳によって象徴されている。

「その街路で証人たちが殺され、その死体が横たわっている『大いなる都』は、『靈的に』言えばエジプトである。聖書の歴史に登場するすべての国々の中で、エジプトほど生ける神の存在を大胆に否定し、その命令に逆らった国はない。天の權威に対して、エジプトの王ほど公然かつ横暴に反逆を企てた君主はほかにいなかった。主の名によってモーセが彼にこの言葉を伝えたとき、ファラオは高慢にもこう答えた。「エホバとは何者か。イスラエルを去らせよというその声に、私が耳を傾けねばならないとは。私はエホバを知らない。さらに私はイスラエルを去らせない。」（出エジプト記5章2節、A. R. V.）これは無神論であり、エジプトによって表される国は、生ける神の求めを同様に否認する声を上げ、不信と反抗の同じ霊をあらわすであろう。『大いなる都』はまた、『靈的に』ソドムにも比されている。ソドムが神の律法を破った墮落は、特に淫乱において顕著であった。そしてこの罪は、この聖句の規定を満たすべき国においても、際立った特質となるはずであった。」

それゆえ、預言者の言葉によれば、1798年の少し前に、聖書に対して戦いを挑むために、悪魔的な起源と性質をもつある勢力が台頭するであろう。そして、このようにして神の二人の証人の証しが沈黙させられるその地では、ファラオの無神論とソドムの放縦が露わになるであろう。

この預言は、フランスの歴史において、きわめて正確で印象的なかたちで成就した。革命期の1793年、「世界は史上初めて、文明社会に生まれ育ち教育を受け、ヨーロッパで最も優れた国の一つを統治する権利を自認する人々の集会在、一致して声を上げて、人間の魂が受け入れる最も厳粛な真理を否定し、神への信仰と礼拝を満場一致で放棄するのを耳にした。」—サー・ウォルター・スコット『ナポレオン伝』第1巻第17章。……

フランスには、ソドムをとりわけ特徴づけた性質が同様に見られた。革命期には、平原の町々に滅びをもたらしたのと同様の、道徳的墮落と腐敗の状態が明らかに現れた。そして歴史家は、予言に示されているとおり、フランスの無神論と放縦を併せて提示している。「宗教に影響を及ぼすこれらの法律と密接に関連していたのは、人間が結びうる最も神聖な約束であり、その永続性が社会の統合を最も強く促す婚姻の結合を、任意の二人が随意に結び、また随意に解消できる、一時的性格の単なる民事契約の状態にまで引き下げた法であった。……もし悪鬼が、家庭生活において尊ぶべきもの、気品あるもの、恒久的なものを最も効果的に破壊する方法を見だし、しかも自ら意図する害悪が一代から次の世代へと永続する確証を同時に得ようとして本気で取り組んだとしても、婚姻の墮落ほど効果的な計画を考案することはできなかったであろう。……機知に富む言辞で有名な女優ソフィー・アルヌーは、共和政の婚姻を『姦通の秘跡』と表現した。」-スコット、1巻、17章。The Great Controversy, 269, 270.

2014年に落成したニューヨーク市のフリーダム・タワーは、ニムロドの塔における反逆を象徴するのみならず、グローバリストによる「自由」の定義の象徴でもある。その定義は、神の律法に対する反逆を表す放縦なLGBTQ+運動の推進において顕在化している。真の自由は、あの塔が象徴するものとはまさに正反対である。ところが、竜の追従者が用いる古典的な欺瞞の手口は、語や語句の定義を作り替え、誤った結論を導き出すことである。竜は典型的な弁護士であり、言葉をねじ曲げて邪悪な帰結を生み出す言葉の職人である。しかし、「自由」という語の真の意味は、アンティファの無政府主義や、フランスの革命に象徴される放縦によって表されるような自由ではない。

神に自分をささげることを拒むすべての魂は、別の力の支配下にある。彼は自分自身のものではない。彼は自由を語るかもしれないが、最もみじめな奴隷状態にある。彼の心はサタンの支配下にあるため、真理の美しさを見ることを許されていない。自分の判断に従っていると自惚れている間も、彼は暗闇の君の意志に従っている。キリストは、魂を罪の奴隷の枷から解き放つために来られた。「だから、御子があなたがたを自由にするなら、あなたがたは本当に自由になる。」「キリスト・イエスにあるいのちの御霊の法則」は、私たちを「罪と死の法則」から自由にする。ローマ 8:2

贖いの業においては強制はない。外的な力は用いられない。神の御霊の感化のもとで、人は誰に仕えるかを自由に選ぶことが許されている。魂がキリストに身を委ねるときに起こる変化には、最も高い意味での自由がある。罪の追放は魂自身の行為である。確かに、私たちにはサタンの支配から自分を解放する力はない。しかし、罪から解放されたいと願い、切なる必要のうちに自分の外にして自分を超える力を求めて叫ぶとき、魂の力は聖霊の神的なエネルギーに満たされ、神の御心を行うにあたって意志の命ずるところに従う。The Desire of Ages, 466.

フリーダム・タワーが象徴する自由は、フランス革命の放縦とニムロドの反逆であった。翌年、トランプ・タワーで、1989年以来で最も裕福な大統領が、グローバリストたちを騒がせることになる出馬を表明した。同じ年、アメリカ合衆国では、フランス革命で結婚が「一時的性格をもつ単なる民事契約」へと変えられたときと同様に、連邦レベルで同性婚が承認された。

竜と最も富裕な大統領との戦いが開始された。神の御力の触れによるツインタワーの破壊は、封印の時の開始と、底知れぬ淵から上るイスラームの獣の到来を画した。その預言的歴史のただ中におけるフリーダム・タワーズの落成式において、底知れぬ淵から上る無神論の獣の到来が画された。今や、エデンの園において制定された安息日と婚姻という二つの制度の崩壊が、封印の時の終結と、第三の、底知れぬ淵から上るカトリックの獣の到来を画している。

2020年11月3日、トランプは、1798年に教皇制が致命傷を負ったのと同様に、政治的な致命傷を負った。その傷は1798年には文字通りのフランスによって加えられ、2020年には霊的なフランスによって加えられた。

そして彼らはその証しを終えると、底知れぬ淵から上ってくる獣が彼らに対して戦いを挑み、彼らに打ち勝って、彼らを殺す。彼らの死体は、大いなる都の大通りに横たわる。その都は霊的にはソドムとエジプトと呼ばれ、そこはまた私たちの主が十字架につけられた所でもある。黙示録 11:7、8。

『各時代の大争闘』において、ホワイト姉妹は、フランスを「わたしたちの主が十字架につけられた大いなる都」だと述べている。

それゆえ、預言者の言葉によれば、1798年の少し前に、サタン的な起源と性質をもつある勢力が聖書に戦いを挑むために台頭するであろう。そして、このように神の二人の証人の証しが封じられるその地では、ファラオの無神論とソドムの放縦が露わになるであろう。『大いなる闘争』270ページ。

アメリカ合衆国で間もなく制定される日曜法の際に、獣の像は完全に形成され、キリストの像が完全に形成されている者たちは、神の旗印として高く掲げられる。旗印として彼らは第七日安息日を堅持し、キリストの義を世に表す。キリストの義は、神性と人性の結合によってのみ成就される。そして、奥義と規定されるこの偉大な真理の内において、婚姻制度が高く掲げられる。その旗印は、安息日と、その双子の制度である婚姻とを表す。

なぜなら、夫は妻のかしらであり、キリストが教会のかしらであるのと同じで、キリストはそのからだの救い主だからである。だから、教会がキリストに従うように、妻たちもすべてにおいて自分の夫に従いなさい。夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも妻を愛しなさい。これは、言葉による水の洗いによって教会を聖めて清め、しみやしわ、またそのようなものが何一つない、栄光ある教会としてご自分の前に立たせ、聖く傷のないものとするためである。このように、夫は自分のからだのように妻を愛すべきである。妻を愛する者は自分自身を愛しているのだ。自分の身を憎んだ者はこれまでにない。むしろ、それを養い育て、いたわる。主が教会に対してそうされるのと同じである。私たちはそのからだの肢体であり、その肉と骨に属する者だからである。だからこそ、人は父と母を離れて妻に結びつき、二人は一体となる。これは大いなる奥義である。私はキリストと教会について語っているのだ。エペソ人への手紙 5:23-32。

旗印は、安息日と婚姻という対をなす制度の象徴であり、また婚姻は神性と人性との結合を表している。その婚姻の奥義は、彼の教会を表し、それは彼の神殿である。

「塔は神殿の象徴であった。」 The Desire of Ages, 596.

封印の時の初めに双塔が倒壊し、封印の時の中頃には、（両の角それぞれに対応する）二つの階級を分離する過程を表す二つの「塔」が特定され、封印の時の終わりには、神の宮と安息日の双塔が異邦人への旗印として掲げられる。

次回の記事でこの研究を続けます。

万軍の主の日は、高ぶるすべての者、自らを高くするすべての者に臨み、彼らは低くされる。また、高くそびえ立つレバノンのすべての杉、バシヤンのすべての樅に、すべての高い山々、そびえ立つすべての丘に、すべての高い塔、すべての堅固な城壁に、タルシシュのすべての船、そして目に美しいすべての細工物に。人の高ぶりはかがめられ、人々の高慢は低くされ、その日には主のみがあがめられる。主は偶像をことごとく滅ぼされる。主が立ち上がって地を激しく震わせられるとき、人々は主を恐れ、その威光の輝きのゆえに、岩の穴や地中の洞穴に入る。その日、人は、拝むために各々が自分のために造った銀の偶像や金の偶像を、もぐらやこうもりのところへ投げ捨て、主を恐れ、その威光の輝きのゆえに、主が立ち上がって地を激しく震わせられるとき、険しい岩の裂け目に入る。鼻に息のある人間を頼みとすることをやめよ。彼は何ほどの者だというのか。イザヤ書 2:12-22

わたしの恵み、わたしのとりで、わたしの高い塔、わたしの救い主、わたしの盾、わたしが信頼する方、わたしの民をわたしの下に従わせる方。詩篇 144:2.